

第29回塩尻市地域公共交通会議兼第11回塩尻市地域公共交通会議 議事録

- 1 日時 令和5年2月3日(金) 13:30~15:30
- 2 会場 塩尻市保健福祉センター3階 市民交流室
- 3 出席委員 37人中 29人 欠席者 8人
詳細 別添のとおり
- 4 職務のために出席した事務局職員 11人
 - 1 事務局長 都市計画課 課長 曾根原 博
 - 2 都市計画課 課長補佐 米山 進
 - 3 都市計画課 計画係 係長 浅川 忠幸
 - 4 都市計画課 計画係 主任 辰野 裕
 - 5 都市計画課 計画係 主事 日野 南
 - 6 企画課 課長 紅林 良一
 - 7 観光課 課長 百瀬 一典
 - 8 福祉課 課長 飯田 哲司
 - 9 長寿課 課長 上野 保佐美
 - 10 教育総務課 課長 熊井 美恵子
 - 11 こども課 課長 竹中 康成
- 5 記者 2人
- 6 その他 2人
- 7 公開・非公開の別 公開
- 8 会議録作成年月日 令和5年2月27日(月)

会議次第

- 1 開 会
- 2 会 長 挨 拶
- 3 議 事

報告案件

- (1) 令和4年度 AI 活用型オンデマンドバス「のるーと塩尻」塩尻東地区実証運行状況及びアンケート結果について
【資料No. 1-1】
- (2) 地域振興バス「すてっぷくん(みどり湖・東山線)(塩尻東線)」同乗調査の結果について
【資料No. 1-2】

協議案件

第1号議案

令和5年度 AI 活用型オンデマンドバス「のるーと塩尻」塩尻東地区の運行(案)について

【資料 No. 1】

第2号議案

地域振興バス宗賀線の運行経路及びダイヤの一部改正（案）について

【資料 No. 2】

4 そ の 他

5 閉 会

3 議事

報告案件（1）

令和4年度AI活用型オンデマンドバス「のるーと塩尻」塩尻東地区実証運行状況及びアンケート結果について【資料 No. 1-1】 市都市計画課 日野主事 説明

- ・報告案件（1）「令和4年度AI活用型オンデマンドバス「のるーと塩尻」塩尻東地区実証運行状況及びアンケート結果について」をご説明いたします。資料 No. 1-1 をご覧ください。
- ・「1 実証運行状況」と「2 アンケート結果」に分けてご説明いたします。まず、「のるーと塩尻」塩尻東地区実証運行の状況について、10月1日から12月末時点での3か月間の「利用状況及び分析」を行いましたのでご報告いたします。こちら前回12月22日報告時から12月の1か月分の実績を加えたものです。
- ・それでは、2ページをご覧ください。こちらでは週ごとに分けて「累積登録者数・利用者数の推移」をお示ししております。10月1日の運行開始以降、12月31日終了時点で826名の新規登録、445名の新規利用ユーザーにご利用を頂いております。
- ・3ページをご覧ください。円グラフで登録者ベースの年代別構成比率をお示ししております。実証開始前と実証開始後と比較すると高齢者（65歳以上）の比率は、実証開始後22%程度となり、高齢者（65歳以上）の比率が5%ほど上がっている事が分かります。
- ・4ページをご覧ください。同じく登録情報から、任意回答の郵便番号について長野県内で2,234名の方にご登録頂きました。塩尻東地区の登録者は既に19%を占めております。任意回答の利用目的で最も多い用途は「買い物」目的で登録者の内55%を占めます。また、「観光」目的も20%の比率を示しており、比較的高い需要を示しております。
- ・5ページをご覧ください。ミーティングポイント乗降のTOP35をお示ししております。塩尻協立病院や松原区ふれあい広場、下西条、サンサンワイナリーなど塩尻東地区のミーティングポイントについても複数ランクインしています。
- ・6ページをご覧ください。現在運行するエリア全体でのゾーン別の移動パターンをお示ししております。塩尻東地区関連の利用で全体の約3割を占めています。
- ・7ページをご覧ください。「総乗客数と高齢者比率の推移」を週別でグラフでお示ししております。塩尻東地区の乗客数は平均20～30名で推移しており、塩尻東地区の高齢者利用は増加傾向にあります。

- ・ 8ページをご覧ください。こちらでは曜日ごとの時間帯別利用状況をお示ししております。平日は朝午前9～10時台、土日祝日は夕方午後4～5時頃に需要のピークがあります。
- ・ 9ページをご覧ください。こちらでは「案内待ち時間の推移」をグラフでお示ししております。全体として待ち時間は低い水準で推移しており、キャパシティには余裕が見られます。
- ・ 10ページをご覧ください。平日朝・夜、土曜夜、日祝夕方で特に高い事前予約比率となっています。
- ・ 11ページをご覧ください。こちらでは具体的にTOP10利用者の移動パターンをお示ししております。
- ・ 12ページをご覧ください。こちらでは塩尻東地区に特化して、TOP10利用者の移動パターンをお示ししております。
- ・ 13ページをご覧ください。前回柳沢委員からご質問・ご指摘をいただいております移動距離に関して、データ分析いたしました。データ集約機能の特性上、総体の形ですが、3.3km以内の移動で全体の8割を占めており、移動のボリュームゾーンは1.2から3.2kmの範囲で発生しています。
- ・ 14ページをご覧ください。こちらでは実車率・乗合率をお示ししており、共にまだ低い状況です。引き続き利用者確保に向けて周知活動・説明活動を続けてまいります。
- 15ページからは今回の実証運行に関する「アンケート結果」についてご説明いたします。
- ・ 16ページをご覧ください。塩尻東地区の方を対象にアンケートを全戸配布しました。1度以上ののりーと塩尻にご乗車をいただき、地域振興バスと比較の上でアンケート回答を依頼しております。
- ・ 17ページで参考にアンケート内容をお示ししております。
- ・ 18ページをご覧ください。年代・世帯構成はご覧のとおりです。
- ・ 19ページをご覧ください。回答者の性別・職業をお示ししております。
- ・ 20ページをご覧ください。免許保有・主な交通手段はご覧のとおりです。
- ・ 21ページをご覧ください。すてっぷくん主な利用路線・利用頻度についてです。塩尻東線が42.9%で最多となります。また、次いでみどり湖・東山線が16.7%です。週1以上ヘビーユーザーが全体の34.1%を占めます。
- ・ 22ページをご覧ください。すてっぷくん主な利用目的をお示ししております。登録時の任意回答と同様に買い物目的の利用が最多です。
- ・ 23ページをご覧ください。すてっぷくん利用満足度は「普通」が4割を占め、次いで「大変満足」が約3割程度でした。不満とを感じる理由は「本数が少なく乗りたいときに乗れない」が最多で8割以上の方が選択しました。
- ・ 24ページをご覧ください。すてっぷくん利用満足度・理由については「100円で移動できる」が97.6%の方が選択しました。
- ・ 25ページをご覧ください。のりーとの主な利用目的を聞いたところ、最多は「鉄道の乗継」で29.6%の方が選択しました。次いで「買い物」が25.8%でした。
- ・ 26ページをご覧ください。のりーと利用満足度については「大変満足」が5割以上、「少し満

足」と合わせると8割以上の方が選択しました。また、のるーとへの意見・要望については「システム改善（到着時間、乗継、予約方法）」が38.4%で最多、次いで「のるーと支持・激励意見」が19.2%ありました。

- ・27ページをご覧ください。のるーと利用満足度・理由については「乗りたい時間に乗れる」が最多で76.9%の方が選択しました。
- ・28ページをご覧ください。のるーと不満・理由について最多は「乗降拠点が少ない」で23.8%、次いで「到着時間が不確実」が23.0%ありました。
- ・29ページをご覧ください。のるーとキャンセル経験有無は63.2%の方が「ある」と回答。また、その理由は「予定が変更になった」ためと回答した方が51.7%で最多でした。なお、4月以降の利用頻度では34.1%の方が週1日以上利用予定とのことでした。
- ・30ページをご覧ください。のるーと導入前後それぞれのタクシー利用頻度についてはともに「使わない」が最多でした。
- ・31ページをご覧ください。令和5年度以降の交通選択について「のるーと」が85.4%、「すてっぷくん」は14.6%の方が選択し、選択理由は「待ち時間」と回答する方が47.9%でした。
- ・以上雑駁で恐縮ですが、「報告案件（1）令和4年度AI活用型オンデマンドバス「のるーと塩尻」塩尻東地区実証運行状況及びアンケート結果について」に関する私からの説明は以上でございます。

質疑

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・資料 No. 1-1、13ページでお示しいただくデータから短距離の移動が多い印象です。東京なら徒歩移動の距離ではと思うような使われ方も見受けられる。そうした方の移動需要に引っ張られてしまい、本当に必要な方のための移動手段として機能していないのではないのでしょうか。
- ・これは確認ですが、資料20ページについては誰を対象としたアンケートでしょうか。また、「主な交通手段」ですてっぷくんを選択したのが全体の8.1%ということでしょうか。

市都市計画課 日野主事

- ・ご質問をいただきありがとうございます。前提で恐縮ですが、本実証事業はご承知のとおりバス利用客が急減する状況を受け、「バス事業の代替」として検証をしております。移動需要の件については資料14ページでお示ししますとおり、その実車率・乗合率は低い状況です。移動の集約化を図る観点では、未だ公共交通を利用した移動の総量が少なく、利用増加に向けた取り組みを続けております。
- ・資料20ページについては、同資料16ページでお示ししますとおり実証運行エリアである塩尻東地区を対象にアンケートを全戸配布した結果、「主な交通手段」としてご回答をいただくものです。

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・利用増加に向けて「取り組む」というのはその通りだが、具体的な方法が見えません。頑張って「取り組む」という話ではなく、具体的にどのように対応をしていくのかを説明いただきたいです。

市都市計画課 浅川係長

- ・ご質問いただきありがとうございます。利用増加に向けて課題があると説明いたしましたが、先ほど資料14ページでお示ししましたとおり実車率が25%から30%前後ほどであり、実動に対して移動の総量が不足している状況を考慮し、利用促進に向けたPR活動を継続していきたいと考えております。また、運行システム面では乗客の乗合発生を図るために到着時刻に幅を設けております。その時間幅をどの程度設定するかはサービス利便の根幹にかかわるものであり、現状は10分程度で設定をしております。左記時間幅を20分に広げた場合には、乗客目線では移動時間が増えることになり利便性が低下いたします。最適な時間幅がどの程度かということも、実証を踏まえて研究してまいります。

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・昨年も実証をしていて、なぜ同じような回答しかできないのか。もっと具体的な方向性が見えてこないといけないのではないのでしょうか。

市都市計画課 米山課長補佐

- ・まず、現在の実証内容を固持するという考えではありません。運行をする中で移動需要が集約化されていくなれば、その区域に関してはセミデマンド方式を採用する考えもございます。ただ、先だって説明のとおり未だ移動需要自体に余裕がありますので、現状は利用促進に努め、現段階ではセミデマンド方式導入の必要性はないと認識しております。また、実証期間中はバス、のり一とともに併走する状況にあり、特にバス利用の方が今後もしのり一に転換した場合にはどういった移動需要を示されるかを注視していきたいと考えております。本実証については本市地域公共交通計画に位置付けて、次年度は広丘・吉田地区、その翌年度は片丘地区と段階的に実施を予定しております。オンデマンドバスにおけるフルデマンド方式、セミデマンド方式といった運行手法の選択は、実証結果を踏まえた運行エリア全体の移動需要を見つつ判断してまいります。

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・資料28ページ「のり一と不満・理由」で23.0%の方が「到着時間が不確実」と回答していますが、このことについて対応はどのように考えていますか。

市都市計画課 曾根原課長

- ・冒頭説明で申し上げたとおり、本実証事業の契機には、既設の地域振興バスの利用が非常に落ち込む現状があります。かねてよりご説明申し上げますとおり「空気を運ぶバス」と言われてしまう状況がある中で、塩尻市における適切な交通モードはないかと考え、本実証事業に取り組んでおります。「到着時刻の不確実」という課題への改善は当然ですが、利用される乗客の方にも少

し変化をお願いし、自らの需要に合わせてバスが呼べる仕組みを上手に活用していただきたい。そのためには、まずは多くの方にご乗車いただける交通にしていかななくてはならないと考えております。のるーとは3日前から事前予約を受け付けております。この機能を活用することで移動需要に見合ったサービス提供を図ってまいります。加えて、利用者の方の中には「予約が面倒」というご意見もございますが、そうした点については予約方法に関しての相談窓口、サポート支援を継続してまいります。特に、電話予約に関しては親身で丁寧な対応を積み重ねていくことで信頼を形成していきたいと考えております。

報告案件（2）

地域振興バス「すてっぷくん（みどり湖・東山線）（塩尻東線）」同乗調査の結果について

【資料No. 1-2】 市都市計画課 日野主事 説明

- ・ 報告案件（2）「地域振興バス「すてっぷくん（みどり湖・東山線）（塩尻東線）」同乗調査の結果について」をご説明いたします。資料No. 1-2をご覧ください。
- ・ 33ページをご覧ください。内容を「1 調査目的・方法」、「2 調査スケジュール・結果」、「3 アンケート結果（傾向分析）」、「4 転換にあたり「困りごと」があるヘビーユーザー」に分けてご説明いたします。
- ・ 34ページをご覧ください。調査目的・方法ですが、みどり湖・東山線及び塩尻東線のヘビーユーザーを特定するための調査であり、同線に乗車して実証運行の趣旨や内容を説明し、のるーと乗車やアンケート回収に繋げてまいりました。また、週1度以上乗車する方をヘビーユーザーと定義しております。なお、調査は令和4年11月14日（月）から18日（金）までの同線全便において実施いたしました。
- ・ 35ページからは「2 調査スケジュール・結果」をご説明いたします。
- ・ 36ページをご覧ください。調査期間における乗車実績は資料のとおりです。みどり湖・東山線で1便あたり3.36名、塩尻東線は1便あたり5.88名の乗車がありました。
- ・ 37ページをご覧ください。こちらではみどり湖・東山線の乗車状況、特徴を整理いたしました。便別、利用者別で特徴を示しております。
- ・ 38ページをご覧ください。塩尻東線において同じく乗車状況、特徴を整理してものです。60歳代から90歳代で67.3%を占めます。
- ・ 39ページからは「3 アンケート結果（傾向分析）」をご説明いたします。
- ・ 40ページをご覧ください。みどり湖・東山線の同乗調査結果についてご説明いたします。乗降路線、便別の乗車割合を円グラフでお示ししております。11時25分塩尻駅前発の便利用が最多で35.7%を占めますが、日当たり平均6名程度の乗車実績です。
- ・ 41ページをご覧ください。利用頻度をお伺いしたところ、週1回以上の利用が69.1%を占めております。
- ・ 42ページをご覧ください。のるーと塩尻の乗車経験有無について「あり」41%、「なし」50.6%、その他8.4%が無回答でした。

- ・ 43ページをご覧ください。年代別では40～50代の割合が高く、20～30代を含めると全体の45.2%に達します。一方で60代以降の利用者も46.3%存在します。
- ・ 44ページをご覧ください。来年度もしのるーと塩尻へ切り替わるとしたらお困りになる理由があるか聞いたところ、「ない」53.2%、「ある」26.6%、その他20.3%が無回答でした。
- ・ 45ページをご覧ください。前ページで「ある」と回答した方へその理由をお伺いしたところ、「予約が面倒」との回答が52.6%、「到着時間が不確実」は36.8%、その他「今のバス停が近いから」との回答が10.5%でした。
- ・ 46ページをご覧ください。ここからは塩尻東線の同乗調査結果についてご説明いたします。乗降路線、便別の乗車割合を円グラフでお示ししております。始発便をはじめ10時10分、12時35分塩尻駅前発の左記3便利用が全体の84.3%を占めます。
- ・ 47ページをご覧ください。利用頻度をお伺いしたところ、週1回以上の利用が71.7%を占めております。
- ・ 48ページをご覧ください。のるーと塩尻の乗車経験有無について「あり」27.2%、「なし」51.7%、その他21.1%が無回答でした。
- ・ 49ページをご覧ください。年代別では60代以降で全体の67.3%を占めます。一方で20代から50代の利用は17.7%に留まり、みどり湖・東山線と比較して60代以降の割合が高いです。
- ・ 50ページをご覧ください。来年度もしのるーと塩尻へ切り替わるとしたらお困りになる理由があるか聞いたところ、「ない」35.9%、「ある」23.4%、その他40.7%が無回答でした。
- ・ 51ページをご覧ください。前ページで「ある」と回答した方へその理由をお伺いしたところ、「予約が面倒」との回答が72.7%を占めました。
- ・ 52ページからは「4 転換にあたり「困りごと」があるヘビーユーザー」についてご説明いたします。
- ・ 53ページをご覧ください。みどり湖・東山線ご利用の3名の方のご意見をお示ししております。具体的には2点、オンデマンドバス利用による「予約」、運行に係る「到着時刻」についてご指摘をいただきました。「予約」に関しましては、お一方はタクシーをご利用になっており、ご利用の際は「電話」で予約していることを確認しております。のるーと利用時にも「電話」にてご予約いただけることをご説明し、予約時におきましては利用者に寄り添う丁寧なオペレーションを基軸として支援体制を徹底いたします。また、「到着時刻」については事前予約等の利用方法を周知するとともに、運行状況を分析して到着時刻の確実性向上を検証いたします。
- ・ 54ページをご覧ください。塩尻東線のご利用者からは6名のご意見をお示ししております。全員「えんぱーく前」を乗降利用いただくもので、みどり湖・東山線と同様でございます。また、「松原団地前」乗車の方が多くを占めます。本調査全体におきましても、「松原団地前」の乗降はともに15%程の利用があります。転換時における困りごととしては「予約」に関する不安をご指摘いただきました。

- ・55ページをご覧ください。54ページの結果を踏まえて、塩尻東線ヘビーユーザーが多く在住する松原地区を主な対象として松原公民館で住民との意見交換会を開催したところ、12名の方にご参加いただきました。当日はのり一と車両を見ていただき、多くのご意見・ご要望を頂戴し、その内容についてご説明いたしました。具体的には、予約に関しては通院時にかかる所要時間等をヒアリングし、予約時における帰路予約の方法をご説明いたしました。また、「携帯電話不保持」に関するご意見に関しましては、固定電話でも利用に関するご登録が可能な旨をお伝えいたしました。予約通知や車内環境については今後の運行環境構築における上で参考にいたします。
- ・一方で、すでにのり一をご利用いただく方からは「利便性に関する評価」もお聞きしており、同乗調査時にのり一と未利用だったヘビーユーザーの方が、その後のり一と初利用をして「とても良かった」とのお言葉をいただきました。他にも「通院時利用が楽になった」、「高出まで出やすくなり便利になった」など遠くまで行けて便利になったとのご意見をいただきました。
- ・以上雑駁で恐縮ですが、「報告案件(2)地域振興バス「すてっぷくん(みどり湖・東山線)(塩尻東線)」同乗調査の結果について」に関する私からの説明は以上でございます。

質疑

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・実証におけるアンケート結果についてはサンプルとして適切な比較対象を用意いただかないと困ります。確認ですが、36ページは日当たり乗客数が平均して46名という理解でよいでしょうか。

市都市計画課 日野主事

- ・お見込みのとおりです。みどり湖・東山線、塩尻東線の1日あたり全10便合わせた乗客数を調査期間・5日間で平均した数字は46.2名です。

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・前段の資料1-1、7ページを見ると塩尻東地区の乗客数は平均20~30名で推移とのことですので、現状はみどり湖・東山線、塩尻東線の方が利用は多いということです。また、公共交通がなくては生活が維持できない方に対して、どのように対応していくのが重要です。なぜオンデマンドバスの方が良いかというのは、この資料では詳しく書かれてはいない。そのあたりをきちんと説明した上で対応すべきではないでしょうか。

市都市計画課 日野主事

- ・ご質問いただきありがとうございます。資料1-2でお示しをしました同乗調査中、帰路のバスを待つ方を多く目にいたしました。バスの乗客の方は、長時間にわたってバスを「待つ」現状がございます。バス、のり一と双方の利用経験がある方からは「のり一と利用によって移動が楽になった」というご意見もいただいております。のり一と全体では先ほど報告案件1でご説明をしましたとおり、移動需要に対して余剰がある状況ですので、今後も運行状況と照らし合わせて内容を検証してまいります。

協議案件

第1号議案

令和5年度 AI 活用型オンデマンドバス「のるーと塩尻」塩尻東地区の運行（案）について

【資料 No. 1】市都市計画課 日野主事 説明

- ・協議案件（1）「令和5年度 AI 活用型オンデマンドバス「のるーと塩尻」塩尻東地区運行（案）について」をご説明いたします。資料No. 1をご覧ください。
- ・57ページをご覧ください。まず、本実証運行については塩尻市地域公共交通計画で目標、施策、目的等の方向性を示し、計画目標「オンデマンド交通や新技術も活用した効率的な地域公共交通体系の実現」を定めております。なお、塩尻市地域公共交通計画は、「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすものです。「持続可能な地域公共交通の実現」を掲げるもので、その策定にあたっては本協議会で議論をいただき、内容を決定いたしました。
- ・58ページでは本実証の関係する計画目標「オンデマンド交通や新技術も活用した効率的な地域公共交通体系の実現」の内容をお示ししております。
- ・59ページをご覧ください。地域振興バスにおける現状と課題をお示ししております。利用者ニーズの多様化等を背景として利用者が年々減少し、地域振興バスの事業費も右肩上がりに増加している状況であり、抜本的な改善が必要です。
- ・60ページをご覧ください。本実証計画全体の事業スケジュールをお示ししております。市街地ゾーンで年次ごと実証運行エリアを拡大しつつ、ヘビーユーザーの方に地域振興バスとオンデマンドバスの乗車比較をしていただき、どちらのサービスが適切か利用ニーズを分析いたします。その結果を踏まえ、次年度の適切な交通モード（運行）を決定いたします。昨年度は中心市街地循環線の廃止、のるーと塩尻への代替・本格運行を協議し、決定いたしました。今年度実証を行う塩尻東線・みどり湖・東山線について、本協議会にて協議をしております。
- ・61ページをご覧ください。本事業実行にあたる「事業ステップ」をお示ししております。実証運行は本市地域公共交通計画、先ほどの計画目標「オンデマンド交通や新技術も活用した効率的な地域公共交通体系の実現」内の「事業イメージ」に沿って実施・検証いたします。
- ・62ページではステップ1として住民意見交換会・説明会の様子をお示ししております。対面での説明を活動の軸とし、住民説明会は合計で26回開催したところ、延べ245名の方にご参加いただきました。その他、市広報掲載やSNS発信、アプリ専用窓口での登録支援など利用促進に向けた取り組みを実施いたしました。
- ・63ページをご覧ください。先ほどご報告をいたしましたとおり、ステップ2として塩尻東線ヘビーユーザーが多く在住する松原地区（松原公民館）で住民との意見交換会を開催いたしました。12名の方にご参加いただき、実際にのるーとを体験いただき、様々なご意見をいただきました。
- ・64ページをご覧ください。一度今年度の事業スケジュールを振り返ります。昨年6月27日の第1回協議で本実証をお認めいただき、同年10月1日から実証を開始。同年9月末から11月半ばにかけて先ほどのとおり住民意見交換会・説明会を実施いたしました。その間広報において

も実証に関して発信をいたしました。報告案件（２）のとおり１１月１４日から１８日にかけては転換対象路線の全便に同乗し、調査を行いました。また、先月にはヘビーユーザーを対象とした意見交換会を行ったところです。

- ・ 65ページをご覧ください。先ほど触れました広報しおじりにおける発信状況をお示ししております。前回協議会でもご紹介いたしましたが、市広報を活用して「利用者の声（7月号）」や「実証運行のお知らせ（10月号）」、「アプリ相談窓口のご案内（12月号）」の情報発信を実施いたしました。のる一と塩尻アプリ相談窓口を設置し、アプリ利用について継続した支援体制を構築しております。
- ・ 66ページをご覧ください。こちらでは地域振興バスのサービス水準を整理しております。塩尻市地域公共交通計画において示す内容であり、この「サービス水準の考え方」に沿って実証結果を検証いたしました。先の報告案件（１）（２）を踏まえ、「生産年齢層、高齢者」といった市民の方の多様な「移動手段を現状と同様に確保」するため、次年度の適切な交通モード（運行）決定に向けた事務局案を整理いたしました。
- ・ 67ページをご覧ください。令和5年4月1日付で、現在塩尻東地区において実証運行中の「のる一と」の本格運行を開始し、それに伴い令和5年3月31日をもって「すてっぷくん」の「みどり湖・東山線」「塩尻東線」を廃止することを提案いたします。
- ・ すてっぷくんは平成18年から運行開始しましたが、利用需要の多様化などを背景として利用者の減少が深刻化しており、実証運行中の塩尻東地区では1便あたりの平均乗客数が「みどり湖・東山線」が3.75名、「塩尻東線」は5.91名程度まで落ち込んでいます。
- ・ 本件を背景に、塩尻東地区エリアの交通モードを検討するため令和4年10月1日から「のる一と」の実証運行を行なってきましたが、利用者数、待ち時間等のサービス水準も堅調に推移しており、同時に実施したアンケート調査結果においても192名の回答者のうち85.4%の方から「のる一と」の本格運行を望む回答をいただいています。また、「のる一と」への転換検討路線であるすてっぷくん「みどり湖・東山線」、「塩尻東線」同乗ヒアリング調査を実施し、その結果を踏まえてヘビーユーザー（週1回以上利用）が集中する地域で意見交換会を開催し、譲歩的な意見を含めて「のる一と」転換に対する合意形成を十分に完了しました。
- ・ 以上のとおり、実証運行で行った各種調査、利用状況、利用者意見を総合的に判断し、令和5年4月1日から「のる一と」の本格運行を開始し、すてっぷくん「みどり湖・東山線」、「塩尻東線」について令和5年3月31日をもって廃止することを提案いたします。
- ・ 68ページでは、本格運行転換後の運賃設定についてご提案いたします。まず、地域振興バスの「代替」という位置付けから、現状のすてっぷくんで移動可能な範囲を200円で移動できる距離として「7km」を設定いたします。また、分かりやすい運賃体系となるよう運賃を7km「以下」・「超」の二区分に設定いたします。距離別運賃の算出方法については、ミーティングポイント間の「直線距離」により運賃を算出し、予約完了時に運賃を提示いたします。
- ・ シニア層の運転免許自主返納を促進し、高齢ドライバーの交通事故防止等を目的として、新たにシニア（75歳以上）を対象とした運賃区分を設定いたします。加えて、小児の対象を小学生以下から中学生以下に範囲を拡大いたします。

- ・以上雑駁で恐縮ですが、「協議案件（１）令和５年度 AI 活用型オンデマンドバス「のるーと塩尻」塩尻東地区運行（案）について」に関する私からの説明は以上でございます。

質疑

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・私ばかりで申し訳ないですが、資料６７ページにあるとおり、みどり湖・東山線は便あたり３．７５名、塩尻東線は５．９１名と決して利用が多くはありません。ただ、先ほどの報告案件（２）で申し上げたとおり、報告案件（１）資料１－１、７ページの日当たり乗客数を確認すると、のるーと利用の方が少ない。この比較がきちんとできていないのではないのでしょうか。また、同ページでアンケート調査結果として８５．４％の方がのるーと本格運行を望むとありますが、残りの約１５％の方が望まない中でなぜこの提案になるのかが疑問です。前回はヘビーユーザーの方への対応が個別に記載があったが、これはなぜ片方のみどり湖・東山線にしか記載がないのでしょうか。譲歩的な意見も含めてというのは明確に説明していただきたい。さらに予約が取れないという意見に対してはどうか対応するのでしょうか。これだけ不明確な状況がある中で、本当に転換が正しいと思うのでしょうか。我々に判断を求める前に、会長の意見を聞きたい。

会長 百瀬 敬

- ・委員ご指摘のとおり非常に難しい案件でございます。アンケート調査結果においては１９２名の回答者の方のうち８５．４％の方がのるーとの本格運行を望まれております。実証における状況について現状持ち得る情報や結果をお示しして、本会において協議をいただきたいというのが提案の趣旨でございます。

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・これだけ対応が不明瞭では我々に結論を求められるのですか、そのあたりを聞いている。これでは判断ができない。

会長 百瀬 敬

- ・まず、本実証に関しては本市地域公共交通計画に沿って進めております。本会の設置趣旨も踏まえて、各委員のご判断をお伺いしたいというところでございます。

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・市長は確認されたのですか。この内容を事前に見ましたか。

会長 百瀬 敬

- ・事前の方針決定をして、本会で協議をいただいております。

市都市計画課 浅川係長

- ・ご質問ありがとうございます。柳沢委員ご質問のあったアンケートの属性についてですが、資料１６ページでお示しをしますとおり、実証を行う塩尻東地区約２，７００世帯の方を対象にアンケートを全戸配布させていただきました。その結果として回答をいただく１９２名のうち８５．４％の方がのるーと本格運行を望まれました。一方で、柳沢委員ご指摘のとおりこの結果だけで判断するのではなく、実際にバスを利用される方、その中でも週１度利用されるヘビーユーザーの方のご意見をお伺いしなくてはならないという思いから報告案件（２）のとおり同乗調査を実

施いたしました。こうした調査やアンケート結果を踏まえて、総合的に判断をして本提案に至りました。

洗馬地区区長会 塚原委員

- ・本実証やその結果は、塩尻東地区の区長の意見を踏まえたものでしょうか。

市都市計画課 浅川係長

- ・ご質問ありがとうございます。まず、本実証運行開始前に塩尻東地区の各区長様には、運行エリアの検討段階からご相談をしております。実証運行にあたり、乗降拠点の決定に至る過程で、その素案をご確認いただきご意見を頂戴いたしました。また、塩尻東地区全体で全26回の運行説明会を開催いたしました。その会場設定から実施に至るまで各区長様にご協力をいただいております。左記経過の中で本実証について特段の反対意見は頂戴しておりません。

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・各区長は公共交通を利用されているのでしょうか。

市都市計画課 浅川係長

- ・各区長様によってマイカーを利用される方も当然いらっしゃると思いますし、公共交通をご利用される場合もあると認識しております。

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・なぜヘビーユーザーの方の動向が重要かと言えば、各区長の意向と実際に公共交通を利用される方の意向は違うからです。そのため、ヘビーユーザーを重視する事務局の実証経過は正しいですし、大変だったと思います。一方でアンケート調査結果についてですが、その回答者は本当に公共交通を利用される方なのでしょうか。

市都市計画課 浅川係長

- ・柳沢委員ご指摘のとおり、アンケート調査結果については総論として85.4%の方からの一と本格運行のご意見をいただくものと認識しております。そのため実証結果については、実際にバスを週1度以上利用されるヘビーユーザーの方のご意向を踏まえて、総合的に判断したところでございます。

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・お示しいただくデータをどうやって判断したらよいのか。私も効果があればオンデマンドバスだって賛成しますよ。ただ、現状では本当に公共交通を利用したいという方にサービス提供ができていない。資料66ページで「サービス水準の考え方」を示してくれていますが、この結果で現状と同様にサービス水準を確保できるのでしょうか。

市都市計画課 日野

- ・ご質問ありがとうございます。資料66ページの「サービス水準の考え方」にありますとおり、地域振興バスの対象を「生産年齢層」や「高齢者」と定義し、その方の「通院」、「買物」や「通勤」などの移動手段を確保するため公共交通を運行しております。そうした背景から、実証運行地区の市民の方を対象にアンケートを行い、広くご意見を募った結果、192名の方からご回答

をいただき、その中で85.4%の方が翌年度からののりーと本格運行を希望されたものと認識をしております。本実証結果の提案に際しては、資料61ページでお示しをしますとおり、事業イメージ内のステップに沿って検証をまいりました。柳沢委員ご指摘のとおり、ヘビーユーザーのご意向を注視して、バス同乗調査を実施し、ヘビーユーザーを対象に個別で意見交換会を行ってまいりました。ヘビーユーザーの方へののりーと転換にあたる困りごとをお伺いしたところ、「予約」に関するご不安をお聞きいたしました。そうしたことから利用に関した説明会を重ねてきた次第でございます。

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・私が聞いているのは「同様に確保」できるかどうかです。「同様に確保」できますよと言ってくれないのですか。

市都市計画課 米山課長補佐

- ・ご質問ありがとうございます。市公共交通計画に位置づけた「移動手段を現状と同様に確保」するには、対象である「生産年齢層」や「高齢者」を含めて幅広い年齢層の方にご利用いただく事業サービスにしていかなくてはなりません。現在の地域振興バスですと「高齢者」の方の利用がメインになりますが、のりーと導入によって「高齢者」だけではなく「生産年齢層」を含む幅広い年代の「生活の足の確保」が実現したと私どもは考えております。

長野工業高等専門学校 柳沢委員

- ・資料55、63ページにあるように、のりーと車内を乗客一人が独占する状態ではないでしょうか。

市都市計画課 曾根原課長

- ・ご質問の意図として、のりーと導入は到着時刻の不確実性の観点、特に電車乗り継ぎの場合に不都合が生じるのではないかと懸念をもっておられるかと思えます。その点に関しては乗車希望日の3日前から予約が可能となっており、そうしたサービスの仕組みを上手に活用いただくことで許容程度まで解消されるものだと考えております。利用方法を習得することで自身の都合に合わせて移動することができますし、生活の自由度も増すものと考えております。

宗賀地区区長会 丸山委員

- ・資料68ページにシニア料金の設定がありますが、対象が75歳以上となっています。他自治体の事例では70歳以上で設定いただく場合もある中で、75歳に設定した理由を教えてください。

市都市計画課 浅川係長

- ・ご質問ありがとうございます。75歳に設定した理由は、後期高齢者の方を対象とした料金設定という意図です。

信州アルピコタクシー労働組合 有賀委員（代理 細川 様）

- ・シニア料金設定にあたり、その確認方法を教えてください。現在、障がい者割引適用にあたっては必ず該当の手帳を確認しております。シニア料金の場合はそうした確認が必要でしょうか。

市都市計画課 浅川係長

- ・ご質問ありがとうございます。シニア料金については、後期高齢者の方を対象とした保険証が交付されておりますので、そちらを確認の上で割引適用を予定しております。

信州アルピコタクシー労働組合 有賀委員（代理 細川 様）

- ・他自治体では70歳以上の高齢者向けにバスを配布しています。そうした事例を参考に運用を検討していただきたいです。

市都市計画課 浅川係長

- ・大変参考になる情報提供をありがとうございます。運行にあたって乗客、ドライバー双方が目で判断できる方法を検討してまいります。

塩尻商工会議所 清沢委員

- ・のり一との利用方法ですが、即時予約は可能でしょうか。

市都市計画課 浅川係長

- ・ご質問ありがとうございます。即時予約可能です。

塩尻商工会議所 清沢委員

- ・具体的に乗合発生に至る過程を教えてください。誰が同乗するかは予約時にわかるのでしょうか。

市都市計画課 浅川係長

- ・ご質問ありがとうございます。同乗される方の情報はわからない設定になっております。ご予約をいただく際に乗車希望時間を選択いただきまして、その希望時間に対して配車予約可能な時間をご案内いたします。その際に10分程度の時間幅を設けておりまして、その時間幅の中で同乗可能な予約があれば乗り合う仕組みになっております。また、乗合発生に至るルート生成はデジタル技術・AIを活用して即時判断ができるため可能なものであり、おそらく人的作業で行う場合には左記の方法と比較して多くの時間を要するものだと認識をしております。

第1号議案については賛成多数により承認されました。

協議案件**第2号議案****地域振興バス宗賀線の運行経路及びダイヤの一部改正（案）について****【資料No. 2】 市都市計画課 辰野主任 説明**

- ・事務局を務めます都市計画課の辰野です。私からは第2号議案「地域振興バス宗賀線の運行経路及びダイヤの一部改正（案）」についてご説明いたします。資料No. 2をご用意ください。
- ・まず1ページをご覧ください。「1背景」についてご説明いたします。令和4年5月1日に地域振興バスすてっぷくんのダイヤ改正を実施しましたが、今回のダイヤ改正により檜川線に速達便が導入され権兵衛橋発の朝の2便が宗賀地区を通過することになりました。それに伴い、宗賀

地区の利用者より「これまで午前中にアクセスできていた桔梗ヶ原病院にアクセスできなくなってしまった」とのご意見があり、アクセスについて「改善」の要望があったため、宗賀線を一部変更し実証運行を行い、利用者のニーズ調査を行うものです。

- 続いて「2現状ダイヤ及び変更ダイヤでの桔梗ヶ原病院へのアクセス」に移ります。こちらではダイヤ改正前と後の櫛川線のダイヤを本山上町から桔梗ヶ原病院前の区間を例にご説明いたします。ダイヤ改正前は本山上町発8時52分、桔梗ヶ原病院前着9時9分及び本山上町発9時17分、桔梗ヶ原病院前着9時34分の便がありましたが、ダイヤ改正後は左記2便が速達便となり宗賀地区を通過することになったため、櫛川線が宗賀地区へ乗入する最初の便が本山上町発12時2分、桔梗ヶ原病院前着12時19分となりました。そのため今まで午前中に桔梗ヶ原病院へアクセスできていた便が2便から0便になっております。
- 続いて2ページをご覧ください。ここからは「3経過」についてご説明いたします。まず、令和4年5月1日のダイヤ改正実施後、5月19日に地域住民からの要望を受けて宗賀地区区長会にてヒアリング及び変更案の検討を行いました。その後、令和4年7月の地区回覧にて本山地区及び日出塩地区の住民へ5月に行われた区長会の内容を周知しました。
- 続いて、令和4年9月14日、15日の2日間で本山地区及び日出塩地区にて住民意見交換会を行い利用者から意見をお聞きしました。住民意見交換会はそれぞれの地区の公民館で実施し、本山地区は7人、日出塩地区は15人の出席をいただきました。加えて、令和4年11月17日に住民意見交換会の際にいただいた意見をもとに作成した変更案について、宗賀地区区長会で説明を行いました。その際にいただいたご意見については次ページで説明させていただきます。その後、令和4年12月の地区回覧にて本山、日出塩、牧野、洗馬地区の住民の方へ変更案の周知を行っています。
- 続きまして3ページをご覧ください。「4住民意見交換会でいただいた主な意見」についてご説明いたします。住民意見交換会では多くのご意見をいただきましたが、その中から主だったものを挙げております。まず「宗賀線の経路を延伸するのではなく、櫛川線の速達便を停車してほしい。」との意見があり、「宗賀線朝一の便は利用者が多いにも関わらず座席が向かい合っているタイプのバスのため、座席が少ない。櫛川線は前向きで座席が多いタイプであり常に座れた。櫛川線の速達便の影響で利用者が増え、座れないことも多くある。立っているととても危険な上に、バス利用者は足が悪い人も多い。利用実態に応じたバスの規格にしてほしい。」や「ダイヤ改正を行う中でヘビーユーザーの意見を主に反映したと言っていたが、通院となると週何回もという人はほとんどいないため、その定義には合っていない。超高齢化社会が数年後には更に進む見込みのため、利用数値だけで判断せず、今後を見据えた点を考慮した運行体系にしてほしい。」、「本山地区は駅がなく、唯一の公共交通が地域振興バスになるため、必須となる。」、「櫛川線に速達便が導入されたことで宗賀線の利用者が大幅に増加し座席に座れない等、結果的にサービス水準が低下している。」、「ダイヤ改正にあたり、地域公共交通会に乗降データではなく、地域の実情を十分に訴えてほしい。」、「ダイヤ改正時の住民意見交換会は宗賀支所で行ったとのことだが、地域振興バス利用者は交通手段のない人が多いため支所まで行くのは厳しい。今回のように今後も各地区の公民館で開催してほしい。」といったご意見をいただき、こ

ちらをもとに次ページ以降で変更案を作成いたしました。

- ・4ページをご覧ください。こちらは「5改正案」となっており、その具体的な内容について記載しております。改正内容案として日出塩上発8時10分の便を増便し、桔梗ヶ原病院から塩尻駅前への直行便として運行を行います。こちらは利用者ニーズの把握を行うため実証運行とします。また、増便に伴うダイヤの変更を行います。対象となる便は塩尻駅前発8時40分、折り返しの日出塩上発9時12分となっており、塩尻駅前発8時40分が8時50分へ日出塩上発9時12分が9時22分へそれぞれ変更となります。
- ・続いて5ページをご覧ください。こちらは増便となる日出塩上発8時10分の便の経路となっております。増便となる便は日出塩上から洗馬局前までの区間は従来の宗賀線と同様ですが、洗馬局前に停車後は国道へ侵入し、桔梗ヶ原病院前と中南信運転免許センター東のバス停に停車後、塩尻駅前に直行する経路となります。なお、えんぱ一く前や市役所前も停車しません。こちらの経路は増便となる日出塩上発8時10分のみ使用となります。
- ・続いて6ページに移ります。こちらは変更に伴う塩尻駅前方面のダイヤとなっております。現状の始発である日出塩上発9時12分の前に8時10分発桔梗ヶ原病院前経由の塩尻駅前直行便を増便し、増便に伴い9時12分発が9時22分へ変更となります。その後の便については現在と変更ありません。
- ・7ページをご覧ください。こちらは日出塩方面のダイヤとなっております。日出塩方面は増便に伴い、現状の塩尻駅前発8時40分が8時50分へ変更となります。その他の便については現在と変更ありません。
- ・最後になりますが8ページをご覧ください。こちらは「6今後の予定」となっております。本日の地域公共交通会議で協議を行った後、2月中旬に国交省へ許認可手続きを行います。その後、3月の地区回覧にて周知を行い、4月から実証運行を開始します。実証運行を2年ほど行い、令和7年のダイヤ改正のタイミングに合わせて運行形態を決定し本格運用を行う予定です。なお、令和7年4月に向けては、実証運行の利用者ニーズを把握するとともに、榎川線の速達便の利用状況など、様々な視点を踏まえて最適な運行を探っていきます。
- ・以上で第2号議案「地域振興バス宗賀線の運行経路及びダイヤの一部改正（案）」についての説明を終わります。

第2号議案については全会一致により承認されました。

4 その他

質疑

塩尻市観光協会 塩原委員

- ・報告案件（1）（2）、協議案件（1）に係る実証によって事業の収支バランスは今後どのようになるのかを教えてください。

市都市計画課 浅川係長

- ・ご質問ありがとうございます。協議案件（1）、資料60ページでお示しをしますとおり、本実

証は本市地域公共交通計画に沿って実証運行エリアを分けて実施しております。その内容は先述のとおり、地域振興バス「すてっぷくん」10路線のうち実証対象6路線を住民選択の結果に基づいて適切な交通モードにするものです。全実証終了予定の令和7年度において実証開始前の運行事業経費約1億円の予算になるよう設計をしております。

塩尻市観光協会 塩原委員

- ・市が負担する予算の持ち出しは変わらないという理解でよいか。

市都市計画課 浅川係長

- ・お見込みのとおりでございます。本実証を通して、資料59ページでお示しをします「ニーズの多様化」、「空気を運ぶバス」、「ドライバー不足と高齢化」といった課題の解消を図り、持続可能な公共交通の実現を目指してまいります。

国土交通省関東地方整備局長野国道事務所 関口委員

- ・報告案件(1)(2)、協議案件(1)に係る実証に関する事後検証は予定されていますでしょうか。

市都市計画課 浅川係長

- ・ご質問ありがとうございます。事務局といたしましても事後検証は必要なものと認識をしております。具体的には令和5年4月以降地域振興バスすてっぷくん(みどり湖・東山線)(塩尻東線)の2路線廃止、のるーと本格運行への転換に伴いまして、のるーとの利用状況が実証期間中とは変化することが予想されます。今後のるーとにおいてどのような移動需要が示されるかを注視して、移動需要の集約化が図れるようならば、フルデマンド方式のみならずセミデマンド方式等の運行手法についても検証をまいります。

第29回塩尻市地域公共交通会議兼第11回塩尻市地域公共交通会議

令和 5年 3月 6日

議事録署名人

丸山 純

印

令和 5年 3月 9日

議事録署名人

横内 昌彦



NO	区分	所属	役職	氏名	出欠	代理人
	主宰	塩尻市	会長	百瀬 敬	出	
1	一般乗合旅客自動車運送事業者	アルピコタクシー(株)松本支社	支社長	横内 昌彦	出	
2	一般乗合旅客自動車運送事業者 (元)	アルピコ交通(株)中南信支社	支社長	二條 宏昭	出	
3	一般旅客自動車運送事業者が組織する団体	塩尻地区タクシー協議会	代表	伊藤 篤	出	
4	一般旅客自動車運送事業者	辰野タクシー(株)	代表取締役	飯澤 和也	欠	
5	一般乗合旅客自動車運送事業者の運転手が組織する団体	信州アルピコタクシー労働組合	塩尻副支部長	有賀 弘	代出	細川明彦 松本支部書記次長
6	市内で運行している路線バス事業者	大新東株式会社松本営業所	担当	櫻井 利朗	出	
7	住民又は利用者の代表者	大門地区区長会	会長	角 浩二	出	
8	住民又は利用者の代表者	塩尻東地区区長会	会長	野村 みなを	出	
9	住民又は利用者の代表者	片丘地区区長会	会長	中野 嘉之	欠	
10	住民又は利用者の代表者	広丘地区区長会	会長	野溝 美憲	出	
11	住民又は利用者の代表者	高出地区区長会	会長	栗山 久利	出	
12	住民又は利用者の代表者	吉田地区区長会	会長	村田 善彦	欠	
13	住民又は利用者の代表者	洗馬地区区長会	会長	塚原 聡	出	
14	住民又は利用者の代表者	宗賀地区区長会	会長	丸山 純	出	
15	住民又は利用者の代表者	北小野地区区長会	会長	赤羽 忍	出	
16	住民又は利用者の代表者	櫛川地区区長会	会長	宮原 正	出	
17	住民又は利用者の代表者	塩尻市友愛クラブ	会長	荻上 弘美	出	
18	住民又は利用者の代表者	辰野町小野区	区長	唐澤 幸茂	出	
19	学識経験者	長野工業高等専門学校	教授	柳沢 吉保	出	
20	国土交通省北陸信越運輸局長又はその指名する者	国土交通省北陸信越運輸局交通企画課	課長	玉巻 史成	欠	
21	国土交通省北陸信越運輸局長又はその指名する者	国土交通省北陸信越運輸局 長野運輸支局	首席運輸企画専門官	高澤 陽	出	
22	道路管理者	国土交通省関東地方整備局 長野国道事務所	副所長	関口 広喜	代出	児玉守 松本国道出張所 所長
23	道路管理者	飯田国道事務所 木曾維持出張所	所長	伊佐地 真也	欠	
24	道路管理者	松本建設事務所 維持管理課	課長	青柳 孝博	出	
25	道路管理者	松本市 建設部維持課	課長	遠藤 隆政	出	
26	道路管理者	辰野町 建設水道課	課長	宮原 利明	出	
27	道路管理者	塩尻市 建設事業部建設課	課長	武居 寿明	出	
28	塩尻警察署	塩尻警察署 交通課	課長	柿澤 弘充	出	
29	長野県の関係行政機関の職員	長野県 企画振興部交通政策課	課長	石坂 公明	欠	
30	長野県の関係行政機関の職員	松本地域振興局 企画振興課	課長	飯田 史晴	出	
31	市職員	塩尻市 建設事業部	部長	細井 良彦	出	
32	その他市長が必要と認める者	長野県バス協会	専務理事	松井 道夫	出	
33	その他市長が必要と認める者	東日本旅客鉄道(株)塩尻駅	駅長	岡田 聡	欠	
34	その他市長が必要と認める者	塩尻市PTA連合会	会長	宮下 和広	欠	
35	その他市長が必要と認める者	塩尻市社会福祉協議会	会長	伊藤 高良	出	
36	その他市長が必要と認める者	塩尻商工会議所	副会頭	清沢 和恵	出	
37	その他市長が必要と認める者	塩尻市観光協会	会長	塩原 悟文	出	

※その他

オブザーバー： アルピコタクシー(株)塩尻営業所
 オブザーバー： 松本地域振興局 企画振興課

所長
 課長補佐

北原 幹夫
 宮澤 正起